

☒ 話すこと ☒ 書くこと☒ 個に応じた教材の作成や指導の充実
☒ パフォーマンステストでの活用☒ 授業での活用
☐ 課外活動での活用☒ 家庭学習での活用実践の
ポイント

AIによる即時的なフィードバックの活用と、言語活動前のAI活用場面のルーティーン化による、生徒一人一人の学びの質の向上

実証概要

<校数>5校(中学校:2校、高等学校:3校[普通科2校、専門学科1校]) <人数>960名(中学校:340名、高等学校620名)
<学年>中学校:第1、2、3学年、高等学校:普通科第2学年、専門学科第3学年

<AI機能>

- ・中学校:スクールAI 教師がプロンプトを入力し、様々な会話場面設定をすることが可能。英作文添削が可能。
- ・高等学校普通科:ELSA for Schools
CEFRレベルを設定した英会話等の双方向のやりとりが可能。音素レベルでの発音の評価や、流暢さを評価することが可能。
- ・高等学校専門学科:World Classroom テーマにもとづいた英会話練習が可能。音読や英会話等を評価することが可能。

AIの効果的な活用方法や取り組み (AI英語モデル校事業)

●即時的なスコア提示やフィードバック機能を活用した主体的な学びの促進

【中学校事例】「書くこと」

- ・「自力で書いた英文をAIに添削させ、修正をして提出する」流れでの英作文の活動を繰り返し行った。
 - ・文法や語彙についての理解を深め、定着を図るため、端末上でのAIによる修正等をワークシートに手書きで記録させるようにした。
- 誤りに留意して自分が書いた英文を修正したり、表現の幅を広げたりするようになった。AIによる修正や提案に対して、さらに質問をしたり、納得がいくまで対話を繰り返したりする等、生徒の自ら学びを進める姿が見られた。

【高等学校事例】「話すこと」

- ・ペア活動における会話練習に比べ、AIを使うと正しい英語で即時に返答があるので、やりとりを持続したり抵抗なくスムーズに会話をスタートしたりできるようになり、AIで練習してからペアでの会話練習をする流れが定着した。
- ・一斉指導が困難な「話すこと」の指導において、個別最適な学びを支援するツールとして機能している。

実践成果の検証結果 (AI英語モデル校事業)

①児童生徒の英語力の変化

【中学校】

- ・CEFR A1レベル相当の英語力を有する生徒の割合が、約19%上昇した。(本事業アンケートより)
- ・「書くこと」及び「話すこと」において、使用する文法や語彙の幅が広がり、内容面の充実が見られた。※パフォーマンステストや言語活動での生徒の発話、英作文を語数、正確さ、内容面等で評価

【高等学校】

- ・自身の英語力向上の認識に関して、各校で前年比7～9%の上昇が見られた(県独自アンケート調査より)。
- ・沈黙が続くことがなくなり、外国人に対しても臆することなく話しかけられるようになった。

②児童生徒の関心・意欲の変化

【中学校】

- ・英語学習でのAI活用について、約9割の生徒が肯定的に捉えていた。※県独自アンケート(英語の学習でAIを活用した感想)の回答。[回答]学び方を自分のレベルに合わせることができ、自分にあった考え方で勉強できて、理解が深まった。/わからないところについて、答えではなく、ヒントを示してくれるので、最後まで自分で考えることができた。/英作文の添削が本当に役に立ち、質問もでき、英語力が向上したと感じられるようになった。

【高等学校】

- ・英語学習が好きに関する質問に、各校で前年比4～9%の上昇が見られた(県独自アンケート調査より)。
- ・AIを相手にした練習を重ねることで、発話への抵抗感が減り、自信を得る姿が見られた。

③教師の指導の変化

- ・個別指導を効率的に行うことができるようになった。
- ・短時間であっても継続的にスピーキング練習の時間を確保することが重要であると考えようになった。
- ・対人での学びの大切さを再認識した。

AI英語活用リーダーの育成や普及に関する取り組み (AI英語活用リーダー事業)

●AI英語活用リーダーの指導力向上

生徒の英語力向上に係る生成AI等を活用することができる人材を育成するため、各モデル校で中核となる教員をAI英語活用リーダーとし、令和7年度は主に指導力向上への支援や育成に重点を置いて以下の取組を行った。AI活用の具体的な事例を創出するとともに、対人での言語活動や教師による指導の重要性について整理することができた。得られた知見について、教育研究団体等を通じて、広く周知を図った。

<取組内容>

- ・鳥取県AI英語活用リーダー連絡協議会開催
 - ・AIを活用した授業づくり研修会開催(参加対象:県内の小・中・高等学校英語科教員等)
 - ・先進地視察:中学校、高等学校普通科、高等学校専門学科それぞれで実施
 - ・[中学校]外部有識者による支援:外部有識者と各AI英語活用リーダーとのオンラインによる個別の協議・相談機会を提供
 - ・中学校モデル校における授業公開:外部有識者による指導助言及び参加者による協議
- ※令和8年度にモデル校公開授業や研修会での実践発表を予定

事業全体を通じた成果や課題、今後の取り組み (AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

●【中学校】

- ・成果や課題:生徒がAIを学びのツールの1つとして捉え、自らの英語力向上に活用しようとする姿が見られるようになった。生徒の英語力において、表現内容の充実等が見られたが、正確さについては顕著な成果が見られなかった。
- ・今後の取組:言語事項の着実な定着に向けたAI活用方法の工夫とともに、教師による指導の充実を図る。

●【高等学校】

- ・成果や課題:発話への抵抗感が減り、英語を話すことへの自信を深めたり、発音を意識して話したりするようになった。毎時間振り返りシートに簡単な感想等を記入することで、自分の成長や弱点等を客観的に振り返ることにより、次の学習へ主体的に取り組めるように工夫した。一方、端末の不具合等により、活動がスムーズに行えないことがあった。
- ・今後の取組:毎時間冒頭に音読などで必ずアプリを使う時間を確保することで、生徒のアプリ使用を習慣化し、トラブルの未然防止及びさらなる有効利用の促進につなげたい。